

クイズ—日本語学習教材としてのアプローチ

マルコヴィッチ・リリャナ (ベオグラード大学言語文学学部)

トリチコヴィッチ・ディヴナ (ベオグラード大学言語文学学部)

divna.trickovic@gmail.com

【要約】

本論の目的は教育実践の事例を一つ紹介しながら言語教育の中でのクイズの使用方法について考えてみることだ。まず、学生自らが作成したクイズを翻訳の元として使用し、その翻訳を通じて両言語の違いを実感させる。より深く語彙の意味を追求するためのプロジェクトワークが進んでいるが、アンケートによると当該の講座ではクイズ翻訳のプロジェクトワークの評判が最も高い。

キーワード：クイズ、日本語、セルビア語、言語間対象分析

1. 序論

この論文の目的は、日本語教材の一環として「クイズ」をどのように活用できるか紹介することである。クイズは昔から様々な形で外国語教育に取り入れられてきた。試験でさえ本格化したクイズの一種だといえるだろう。しかし、今回のケースでは、それとは異なる方法でクイズを使用した。学生に自らクイズを作成してもらい、それを日本語に翻訳させることで、翻訳する上での必要な手順、また、今後の日本語学習で深く追及しなければならない点を見つけてもらうことが狙いだ。本論文では、はじめに何故クイズの作成を選んだかについて述べる。次に、実際に授業で使用したクイズの事例を紹介する。最後に、クイズを使うことやその講座に対する学生の意見をアンケートなどから得たので、そのアンケート結果に基づいてこの方法論の効果を図ってみる。

2. なぜクイズなのか？

『日本語いっばい』(Markovic&Trickovic、2014、2015)及び『漢字』(Markovicら、2013、2014)という日本語学習教材の作成時にもクイズを多く使ったが、具体的に授業に導入するというアイデアは、2016年にブダペストでSrdanovicらの発表を聞いた際に芽生えた。その際Srdanovicらはユライ・ドブリラ大学プーラ人文学部で観光業のために導入されたばかりの日本語コースについて話した¹。その

¹「ユライ・ドブリラ大学プーラ人文学部では、2015年9月から日本語・日本文化の3年間の学部プログラムが新しく設立された。クロアチアではじめての単位取得可能な日本語コースということもあり、クロアチア中から学生が集まっている。本発表では、そのプログラムの概要と特徴、実施した授業や活動、リュブリャナ大学との交流などを紹介し、一般日本語、観光日本語、ビジネス日本語、日本語学習支援のオンラインリソースなどの科目について述

大学ではオンラインの教材リソースに関する授業の中で自律学習を促進させるために、違う分野のクイズもプロジェクトの一環として生徒に作ってもらったとのことだ。それらのクイズを使ってお互いの学習を助け合うことが目的だった。その際学生が作ったクイズは quiz.com にてオンラインで見られるようになっている。発表の際 Srdanovic らはこう言った：「クイズ作成の活動:クイズ作成は、個人もしくは3人までのグループで、以下の手順で行った。①学習したいテーマを選ぶ。②クイズの目標を設定する。③教科書、文法教材等を使って調べる。④www.quizup.com を使いながら、クイズを作成する。⑤問題点を考察する。⑥授業で発表する。⑦利点と欠点について議論する。作成したクイズの例としては、*Japanese food and drink: 日本の食べ物と飲み物*、*Beginner's katakana: アイウエオ*、*Anime titles in Japanese: Learning Japanese using anime knowledge (アニメタイトルと日本語学習)* 等が挙げられる。」² (スルダノヴィッチ& 松野、2016: 4)。

Srdanovic らの目的はこう述べられていた：

「クイズは公開されているので誰でも利用できるし、フォロワーにもなれるため、世界中の日本語学習者と繋がる機会にもなる。」(スルダノヴィッチ& 松野、2016: 4)。

一方で、私たちの目的は、このアイデアに影響を受けながらも方向性が違っていた。無論、私たちが作成したクイズも学習の助け舟として使うことができるが、それを優先しているわけではない。

ベオグラード大学日本語学科にて2013年の春に始まった日本語・セルビア語の言語間対照分析という講座では、対照言語学の基本的な概念を生徒に近づけることを目標としている。セルビアではあまり研究が進んでいないこの幅広い分野を一学期のみという短期間で細かいところまで教えるのは現実的ではないので、この講座の目的は次のように設定される。まず、生徒に対照言語学の重要性と可能性を理解してもらい、卒業後に翻訳・通訳を行う上での期待値を満たすにはどうすればいいのかを紹介することだ。

今までの経験上、2015年のザグレブでも触れたが、一つの教材だけに沿って日本語を学習している学生は偽の自信を持つ傾向にあり、対照分析の重要性を知るのに時間がかかってしまう傾向にある(マルコヴィッチ、トリチコヴィッチ& ベルセヴィッチ、2015)。その方法だと、日本語の文法科目と単語を課ごとに学んでいき、それをセルビア語に訳すことになる。そして、それに基づいて今度はセルビア語から日本語への翻訳の練習をする。しかし、その元となるセルビア語の文章はその時点までに学習した日本語の文法パターンと語彙で訳せるような簡単なものだけだ。ある程度のレベルまではこういった習得方法は合理的だろう。しかし、そのカリキュラムの外に一步でも足を踏み出したら、生徒はツールもスキルも持っていないと実感し、まるで立ちはだかる崖の前に立っているような気持ちになるそう。私たちがこの事実気づいたのは、普段セルビア人の学生は外国語でしゃべることが好きなのに、何故か日本語でしゃべることには抵抗感があり、会話を避ける傾向にあることが分かったあとだった。

何故、勤勉で成績が良くても十分に日本語を話せない学生がこんなにも多いのかという疑問を抱いていたため、いくつかのプロジェクトを実施し、この課題を追求することで学生の助けになろうとしてきた。先ほどにも述べた日本語・セルビア語の言語間対照分析という講座の設立もその結果の一つである。

べる。特に、日本語学習支援のオンラインリソースの科目の授業内容を取り上げ、人と人を繋ぐソーシャルネットワークなどのリソースを利用した日本語教育の事例を考察する。例えば、学生に開発・利用させたオンラインクイズの活動、日本語学習者用のオンラインドラマに基づいて作成・発表させた演劇活動などである。最後に、新しく設立されたプログラムの現状と今後の課題について言及する。」(スルダノヴィッチ& 松野、2016: 1)

プーラ大学の日本語学科の特徴としては、一般日本語教育に加え、クロアチアの主要産業である観光業を視野に入れ、観光日本語を1年生から導入していることがあげられる。(スルダノヴィッチ& 松野、2016: 2)

²公開されている学生が作ったクイズの例は以下である。https://www.quizup.com/topics/_8ad1169f-9a8d-42a4-b174-e2505063b290 (スルダノヴィッチ& 松野、2016: 4)。

この課題の解決を目的として2016年から2017年まで、2回、日本語・セルビア語の言語間対照分析という講座においてクイズの作成を導入した。具体的には、身近な話題についてのクイズを作るという目標は、「陽動」であった。学生には始めからクイズ作成の目的は、翻訳の際に生じた課題を後から発表することだと伝えていた。それにも関わらず、馴染みのあるテーマを扱うことによって無意識か意識的かはわからないが、短期間で良いクイズを作ろうと夢中になりすぎたり、自分の日本語能力で周りを驚かせたかったということに焦点が当たってしまい、つい教科書の支持に沿って文章を書くことを忘れてしまっていた。つまり、母国語で作成した文章を簡単に日本語に訳せるかどうかは作成時に考慮せず、セルビア語(内容)のことだけを考えていたのだ。そのような陽動を目指してクイズを作成させた。この後はこのクイズの内容、その翻訳に当たる内容とプロジェクトの成果について述べていく。

3. クイズの事例について

授業での手順は次の通り行われた。生徒は日本もしくは日本語と関係がない、自分の詳しいテーマを自由に選ぶ。それから4, 5人でグループを組み、簡単なクイズを作る。クイズは全部で10問あり、それぞれ3つの選択肢から正しい答えを1つ選ぶ形式だ。

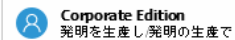
初年度(2016年)はテーマを選ぶのに手間がかかったのに対して、次の年は、先輩の事例があったため、作業がスムーズに進んだ。初年度のクイズには難易度が高すぎるものもあった。例えば、ニコラ・テスラについてのクイズは内容が専門的すぎてほとんど誰も正解を知らなかった。

1. 2016年の春のクイズとその修正の事例

5. Uspeva da proizvede naizmeniču struju napona od milion volti koristeći:

100万ボルトまで出力できる発明を生産で成功を収めた

- a. 電気椅子(でんきいす) – električna stolica
- b. 点火プラグ(てんかプラグ) – svećice za kola
- c. 高圧変圧器(こうあつへんあつき) – visokonaponski rezonantski transformator




2016年のテーマはニコラ・テスラ、セルビアのお酒 ラキヤ、セルビアの山、ヴォイヴォディナ自治州、1389年のコソボの戦いで、2017年のテーマは：ギリシャ神話、セルビアの食生活、テニス、第一次世界大戦と第一次セルビア蜂起だった。

修正の手順だが、まず電子メールでセルビア語版を送ってもらい、それを確認したら日本語に訳させる。日本語訳の添削はセルビアの優秀な通訳者の一人でもある、ウナ・ベルセヴィッチが担当した。ベルセヴィッチには修正し、コメントなどを加えたものをメールで返してもらった。

2. 2016年の春の「セルビアの山」というクイズとその修正の事例

3. ドナウ川の右側に広がっているフルシュカゴラ山の知られているのは何のこと?

1. 最大の遊園地
2. 港
3. セルビアの第一国立公園
4. 原始発電

 Corporate Edition
は何で知られている(か)?

 Corporate Edition
の

その後で、修正個所に基づいた課題に関して授業で発表を行う。発表の準備には『Speech for Basic Level Japanese for organized oral presentation of one's country, culture, and society (『初級からの日本語スピーチ - 国・文化・社会についてまとめた話をするために』)』という教科書を参考にする。発表の評価採点には先生に加え学生も参加する。その際、全生徒に元となる文章と修正箇所両方が比べられる資料を事前に配布する。目標は日本語での発表を練習させることだけではなく、自分の間違いを言語学習のプロセスで欠かせない過程の一つとして客観的に認めて、建設的なアプローチを身につけさせることだ。

この「陽動」は今までほとんどの場合成功した。日本語を気にせずにつくったクイズを日本語へ訳してみた生徒は翻訳過程における苦労を全て実感することができる。文章自体は決して難しくなくても、セルビア語と日本語のニュアンスや物事に対する視点が違うので、想像以上に訳しにくかったのである。つまり、単語と文法をただ入れ替えるだけでは解決できない、ということが分かる。特に受身、モーダル動詞の使い方などに気をつけなければならない。

3. 文法間違いの事例

4. Od kog se sve voća može praviti rakija?

ラキヤはどの果物から造られることができますか。

 Corporate Edition
造る

1. Da li znate kako nastaje rakija?

ラキヤはどうやって造られているのか知っていますか。

 Corporate Edition
造られるか

しかし、今までの結果によると、中でも生徒を困らせたのは語彙だった。セルビアの歴史特有の語彙はもちろんのこと、案外ごく身近な語彙のコロケーションで苦戦する場面も多々ある。

4. セルビア文化の特有の語彙の事例

2. Šta se radi na slavama?

- a) Hrana se ritualno nudi bogovima
- b) Gosti se prejedaju i napijaju
- c) Gosti i domaćini razgovaraju o umetnosti i prolaznosti

2. スラバという行事 **では** どのようなことをしますか。

- a) **神に儀式で飯をさしあげます。**
- b) お客様が食べすぎて飲みすぎます。
- c) **主客が芸術と無情について話し合います。**

3. Šta se stavlja u komplet lepinju?

Kumachka
中身が出なくて

Kumachka
Postoje sve u formi postovanja, bolje 神様

Kumachka
Isto... ご飯
Mlada, hrana koja se nudi bogu se zove お供え

Kumachka
S obzirom da na japanskom nema adekvatna rec za domaćina, a podrazumeva se da je on subjekat, dovoljno je samo:
お客様と芸術や無情について話し合います。

既に説明したのクイズの翻訳についてのプレゼンテーションは日本語・セルビア語の言語間対照分析という講座で一つ目のプロジェクトワークだ。二つ目は語彙の使い分けとコロケーションがより理解できるようオンラインコーパスを使い(主に NINJAL-LWP /<http://nlb.ninjal.ac.jp/>を使用する)その結果に基づいて小論文を書くこと。この最初のクイズのプロジェクトワークで分かった間違いを二番目の語彙の使い分けに関するプロジェクトワークのテーマにした生徒も少なくない。そして、三つ目は、セルビア語と日本語のテキストを元に、自分が関心を持つ文法項目についてのコーパスを作成することだ。どちらのプロジェクトワークにも追加の目標がある。たとえば、一つ目のプロジェクトワークはプレゼンテーションのし方であり、二番目と三番目の場合は小論文の書き方が追加される(小論文の書き方については以前の論文を参照 (Markovic & Trickovic, 2014))。

セルビアの食生活のクイズに基づいて、コーパスの研究テーマにもなった小論文の中で特に Nikolina Ivanovic の卵の皮：卵の殻の違いについての小論文が興味深かった。恐らく今後もこのテーマを追求することになると思う。

5. 2017年の Ivanovic らのクイズの事例

1. Kako da znamo da li je jaje dovoljno skuvano?

- a) Kada razbijemo ljusku, ono se ne razliva, nego je čvrsto
- b) Kada mu ljuska pukne
- c) Kada pluta na površini vode

1. **卵が十分茹でたのはどうやってわかりますか。**

- a) **皮をこわしたら、卵が流れなくて固いです。**
- b) **皮殻がこわれています割れたときです。**
- c) **水の表面に卵がうかべていますうかんでいます。**

Kumachka
卵を十分茹でたかどうかはどうやってわかりますか。
Dovoljno je samo: ゆで卵ができたかどうかはどうやってわかりますか。

Kumachka
Cela, razeniša: 殻を割ったとき、中身が出なくて固い

Kumachka
Ljuska je 殻(から), a 皮 je koža ili kora.

Kumachka
割った時(割ったとき)

4. 結論：クイズの効果・成果

クイズのプロジェクトワークは全部で3コマもしくは4コマ（①コマ90分）を占める。初回の授業で講座の前提、先生の紹介を行い、最後の15分でグループ分けをしクイズのテーマを選択する。そして宿題としてメールでクイズのセルビア語版を送ってもらって、内容が適していると判断したら、翻訳を始める許可を与える。二つ目のコマでは翻訳について話し合っ、いくつかヒントを与える。その後、プレゼンテーションの方法についての話を導入する。全フェーズにおいて締め切りが決まっている。生徒は締め切りを厳密に守ってくれたので、実際に日本語でプレゼンテーションを行う三コマ目の授業の数日前には、全員にクイズの修正版を返すことができた。2017年はグループの数が多かったので、4コマ目の前半もプレゼンテーションの時間に充てた。

講座の最後にアンケートで講座全体の採点評価を行ってもら。三つあるプロジェクトワークの中で最初のクイズのプロジェクトワークの評価が一番高かった。一人の生徒のコメント部分をそのまま載せる。

6. 講座について生徒のコメント1

Najveći izazov nam je, ipak, predstavljalo prevođenje kviza na japanski jezik. Tu smo se suočili sa tri osnovna problema:

1. Među brojnim sinonimima, koju reč upotrebiti u prevodu?
2. Koji nivo učtivosti upotrebiti?
3. Kako naše igre reči i pokušaj humora preneti na jezik i kulturu tako različite od naše?

Bil...

7. 講座について生徒のコメント1の続き

rad. Ipak, ovaj projekat postigao dve stvari: da nam sruši samopouzdanje koje je počivalo na lažnim znanjima, kao i da postavi temelj istinskog i opravdanog samopouzdanja zasnovanog na pravom znanju. Sledeća dva projekta koja su za mene bila veći izazov, pomogla su da mi se razjasne neke stvari, pa sada kada se osvrnem na...

生徒のコメントの翻訳：「(問題点を述べた後)

「しかし、やはり一番大きな挑戦はクイズを訳すことでした。翻訳では主に三つの課題が挙げられました

1. 数多くの類似語の中でどれを選択すればいいのか
2. どのレベルの敬語を使えばいいのか
3. どうすればセルビアの言葉遊びやユーモアを日本語で伝えられるか」

[...]

「このプロジェクトワークを通して二つのことを達成しました：今まで持っていた自信は偽の知識に基づいていたと知り、真の知識に基づいた正当な自信となる基礎を改めて築くことができました。その次の二つのプロジェクトワークは私にとっては最初のものより大きい挑戦でしたが、おかげでいくつかの課題が明確になりましたので、今振り返ってみると...」

生徒が自己評価と目標設定の能力を強化する手段として授業で習得した内容を振り返るのは非常に大事だと思っている。そのおかげで自律学習者としての自信を身につけ、強化することができるので、大学の方針による新しい方法論を成り立たせる為には欠かせないものであろう(Markovic & Trickovic, 2016)。

生徒の大半以上は授業の内容と実施方法を肯定的に評価したが、唯一の否定的意見は、3つのプロジェクト・ワークに充てられる時間が少なかったため内容を深いところまで追求できなかったという意見だった。来年度も同じ講座を続けていくが、生徒の評価も受け入れ、今度は二つの講座に分けて進めていくという対策を立てている。

参考文献

- 『初級からの日本語スピーチ - 国・文化・社会についてまとまった話をするために』(Speech for Basic Level Japanese for organized oral presentation of one's country, culture, and society). (2007) 国際交流基金関西センター、凡人者。
- スルダノヴィッチ・イレナ、松野直行.(2016) 「プーラ大学における日本語教育」 (本発表は、以下のリンクに見られる <https://www.youtube.com/watch?v=8x6dY1Fe3Ys>) (未出版) [2/18/2018]
- マルコヴィッチ・リリャナ、トリチコヴィッチ・ディヴナ、ベルセヴィッチ・ウナ. 2015. 「セルビアの L2 日本語教育における B1 に適した単語の選択と使用方法について」 『第 28 回日本語教育連絡会議発表論文集』 2015 年 8 月 24-25 日、ザグレブ (available at: <http://renrakukaigi.kenkenpa.net/ronbun/2015015.pdf>) (83-91).[2/18/2018]
- Marković, Lj., Tričković, D., Erdeljan, M. & Marić, S. (2014) *Kanđi – udžbenik za japanski jezik, II prošireno i izmenjeno izdanje* 『漢字』(Kanji - Japanese language textbook, 2nd expanded and revised edition). Belgrade: Faculty of Philology, University of Belgrade.

- Marković, Lj. &Tričković, D. (2014) *Udžbenički komplet za japanski jezik Korak po korak (Japanese language textbook set Step by step 『日本語一步一步』)*. Belgrade: Faculty of Philology, University of Belgrade.
- Marković, Lj. &Tričković, D. (2015) *Udžbenički komplet za japanski jezik Korak po korak, II prošireno i izmenjeno izdanje (Japanese language textbook set Step by step 『日本語一步一步』, 2nd expanded and revised edition)*. Belgrade: Faculty of Philology, University of Belgrade.
- Marković, Lj. &Tričković, D. (2016) 'Students for Students – The development of a new pedagogy exemplified in kanji acquisition (学生から学生へー漢字学習を事例とした新たな教育学の開発)'. *Japanese Language Education in Europe 21. The Proceedings of The 20th Japanese Language Symposium in Europe, 2016* (2016 日本語教育シンポジウム (第20回 AJE ヨーロッパ日本語教育シンポジウム ; 第5回 AIDLG イタリア日本語言語学・日本語教育学会))July 7 - 9, 2016, Ca'Foscari University of Venice (Italy). AJE & AIDLG.
<http://eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=189-194&filename=koto-markovic-trikovic.pdf&p=venezia>
(172-178). [2/18/2018]
- NINJAL – LWP /<http://nlb.ninjal.ac.jp/>